

2011 年

4 月 17 日（日曜日） 「きもの」の絆、美作との絆 - 京丹後きもの祭・ちりめん祭 -

蚕織神社祈願祭、京丹後ちりめん祭りと併せて、京丹後きもの祭りが、多くの着物姿の皆さんがご参会され、華やかに開催されました。

今、東日本大震災への支援の輪が拡がり、相互扶助や団結力などの日本の伝統的文化や美德の大切さ、素晴らしさが改めて再認識されていますが、それこそ今秋は、日本の伝統的な文化をはじめ文化全般について全国的な交流を深め振興を図る国民文化祭が京都で開催される予定だ。そんな中、まさに、「きもの」は日本文化の象徴的な一つであり、本市でもシルクファッションフェスティバルが開催されるなど京丹後からきものをはじめ絹の文化の素晴らしさを広く発信していきたい。

きもの祭りと併催されている京丹後ちりめん祭りには、岡山県美作市から市長さんの奥様はじめご当地・湯郷温泉、市の関係者、芸者さん方が参加されておられます。心から歓迎を申し上げる次第です。美作ではまさに着物姿の復活を期して頑張っておられると伺い、温泉のほか、きものが互いのまちの共通の絆になっているようです。

また、美作は、かの剣豪、宮本武蔵のご生誕の地ということですが、武蔵は、近世・江戸初期の人で兵法・二天一流や書画でもよく知られ、その分野の文化的象徴であります。本市も古代の日本文化の象徴的な一つであることから、時代を越えてそれぞれ日本文化の源につながるようであるのも両地域の共通点、絆かなとも思います。そして実は、幕末・明治開設の初期、廃藩置県後の一番最初の 3 年間、両地域は同じ久美浜懸、同じ自治体・懸（県）の仲間であり、深いつながりを有しています。いろいろな絆を有する両地域、今後とも、いろいろな交流をますます重ねていきたい。